



横浜市議員

竹内やすひろ

市政報告

ヒットエンドラン通信



災害対応力を強化する女性の視点

災害は、自然現象(自然要因)としれを受け止める側の社会の在り方(社会要因)により、その被害の大きさが決まると考えられており、被害を小さくするためには、社会要因による災害時の困難を最小限にする取組が重要。中でも、人口の半分は女性であり、女性と男性が災害から受ける影響の違いなどに十分に配慮された女性の視点からの災害対応が行われることが、防災や減災、災害に強い社会の実現にとって必須です。

～男女共同参画の視点からの防災・復興ガイドライン～

7つの基本方針

- (1) 平常時からの男女共同参画の推進が防災・復興の基盤となる
- (2) 女性は防災・復興の「主体的な担い手」である
- (3) 災害から受ける影響やニーズの男女の違いに配慮する
- (4) 男女の人権を尊重して安全・安心を確保する
- (5) 女性の視点を入れて必要な民間との連携・協働体制を構築する
- (6) 男女共同参画担当部局・男女共同参画センターの役割を位置付ける
- (7) 要配慮者への対応においても女性のニーズに配慮する



防災意識調査を実施

「地震だっ」もしもときこそ。女性の視点を大切に。「わたしの防災カノート」



(公財)横浜市男女共同参画推進協会・横浜市政策局により制作された、YOKOHAMA 「わたしの防災カノート」があります。「地震だっ」もしものときこそ。女性の視点を大切に。女性の視点を防災にいかして、だれもが安心できるまちと暮らしを!「わたしの防災カノート」は、実際に震災を経験した女性たちの声をもとに、災害時における不安、課題を整理したものです。女性が直面したリスクを知り、災害に備えることは、誰にとっても安心・安全なまちと暮らしにつながっています。あなたの防災力を、このノートとわたしの防災カシートで見直し、身近な人と話し合ってください。(わたしの防災カノートより)

*横浜市男女共同参画推進協会のホームページで見る事ができます。

- 第1章 防災はイメージする力
～今、地震が来たら命を守る?
～「もしも」のとき、わたしは?
- 第2章 防災はつながる力
～「もしも」に備える「いつも」
おわりに 防災はあきらめない力
〈挟み込み〉わたしの防災カシート

子どもも家族も生き残るための防災

妊娠中や子育て中は、自分の思うようには動けないことだらけ。そんななか、どうやって大切な命を守る?「子育てママの防災おしゃべりサロン」に参加の子育て当事者の声から、不安を防災力に変えるヒントを探ります。(同)子育てママの防災おしゃべりサロン

2008年2月～7月開催

講師:伊村則子(武蔵野大学准教授)

横浜市議員

竹内やすひろ (たけうちやすひろ)

神奈川区政務調査事務所

横浜市神奈川区大口通り127-16コスガビル1F

TEL : 045-716-6822 FAX : 045-716-6823

ホームページ <https://takeuchi.180r.com>

E-mail mail@takeuchi.180r.com

健康福祉・医療委員会委員長

基地対策特別委員会

公明党神奈川県本部幹事長代理

公明党神奈川県本部団体局長

公明党神奈川支部 支部長

防災士

公式ホームページ

<http://takeuchi.180r.com>



横浜経済の活性化と市民生活を豊かにする総合港湾づくり

令和6年度横浜市会令和6年度予算特別委員会、局別審査において港湾局の視察を踏まえて予算質疑を行いました。

港湾局予算所の冒頭には、「我が国の貿易量の約99.6%は港を経由して運ばれており、横浜港の経済波及効果は市内の所得・雇用の約3割と関わっています。横浜港は、市民生活を支える無くてはならない都市インフラであり、中期計画に掲げられたテーマ「生産年齢人口流入による経済活性化」「まちの魅力・ブランド力向上」「都市の持続可能性」に大きく貢献し、基本戦略「子育てしやすいまち 次世代を共に育むまち ヨコハマ」を力強く支えていきます。」とあります。横浜経済の活性化と市民生活を豊かにする総合港湾づくりに連なる予算編成です。



国際コンテナ港湾の推進

本牧埠頭D5コンテナターミナル再整備の状況を視察しました。昨今、D4ターミナルを拠点としているコンテナ船運航会社は、全長約400m級の超大型船の投入を希望していますが、岸壁延長の不足等により着岸ができません。コンテナ船はウイークリーサービスという週1回の寄港となっており、現状、中南米航路では12隻の船隊で、一週間間隔で運航されていますが、そのうちの超大型船1隻が横浜港に着岸できず釜山港で積替えられている状況です。超大型船を確実に受け入れることを目的にD4・D5の一体運用に向けた再整備が急務となっています。

本牧埠頭 D5ターミナルを視察

自動車貨物取扱機能強化



大黒埠頭自動車貨物の状況を視察

横浜港では、完成自動車・関連部品をあわせた自動車関係品目が輸出貨物取扱量の約5割を占める主要な取扱貨物となっています。

完成自動車は、横浜港の主力輸出品目であり、大黒ふ頭は「東日本最大の自動車取扱拠点」となっています。自動車専用船の大型化や着岸隻数の増加に対応するため、自動車専用船岸壁の改良、コンテナターミナルの自動車ターミナルへの転換等を進めてきました。その結果、日本最大級となる11隻の大型自動車専用船が同時に着岸可能な自動車取扱拠点となりました。

輸出先は、アジア・豪州・北米・アフリカ・南米など世界各国にわたっています。北関東を中心に完成自動車や部品の生産拠点を抱え、東日本における最大の取扱拠点としての役割を今後も担っていくために、大型化が進む自動車専用船への対応や、民間事業者によるターミナル運営に向けた貸付制度の導入等を行いました。今後も取扱量の増加が見込まれる電気自動車(EV)も含め、自動車取扱機能の強化を進めています。